

牛川小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「意欲的にかかわり合い、学び合う『牛川っ子』」をテーマに掲げている。ESDを「地域を愛し、地域の環境を守っていけるような持続可能な開発のための教育」と捉え、実践を通して、「地域のよさに気づき、地域を愛し、地域を誇りに思う子ども」を育成することを目標とした。
- ・①環境に関わる教育（地域の自然に触れ、大切にしようとする）、②健康・福祉に関わる教育（地域施設を訪問し、高齢者とのかわりについて考える）、③環境、食に関する教育（地域の方に米づくりを学び、育てた米や手作りした味噌の調理を通して食の大切さを考える）などの実践を行った。

・活動の実際

① 環境に関わる教育（地域の自然に触れ、大切にしようとする）—「朝倉川調査隊」—（4年生）

4年生では、「朝倉川の自慢できる場所を探そう」という視点で調査活動を行った。川で遊ぶ中で「川に生息する生き物」や「水辺の植物」にに興味をもって調べる子など、それぞれ課題を見出していった。調査活動が続ける中で、昔の朝倉川はもっときれいだったことを知った子どもたちは、「昔のような川にもどしたい」という思いをもった。そこで育水フォーラムの方や市役所の環境保全課の方からの聞き取りを行い、生き物がたくさん来る環境とはどんなものかを学んだ。「朝倉川復活プロジェクト」を立ち上げ、水質検査、川辺のごみ拾いなどを行う中で、川への愛着を高めていった。そして、ちらしを作成し、学校のみんなに朝倉川のよさや問題点を知らせ、「川を守ろう」と呼びかけていた。

これらの学習を通し、地域の自然環境への興味関心を高め、「校区の自慢できる場所の一つとしたい」という思いをもつことができた。



4年 朝倉川探検

② 健康・福祉に関わる教育（地域施設を訪問し、高齢者とのかわりを考える）—「支え合ういのち」—（6年生）

本校では、地域の高齢者の方とのふれ合いを大切にした取り組みが長年行われている。1年生の「昔遊びの会」、総合的な学習やクラブ活動におけるゲストティーチャーなど、地域の高齢者の方々に支えられた教育活動が展開されている。そんな中、「支えられる」から「支える」側へと見方を変える活動として、6年生が高齢者福祉施設訪問を行っている。子どもたちは歌や手遊び、劇などの出し物を考えた。そして歌の出し物での準備では、歌詞を大きく濃い字で書いた紙を用意するなど、相手側にたった工夫をしていた。訪問を喜んでくださる高齢者の方たちの様子から、役立てたことの喜びを感じている子が多くいた。また、福祉施設で働く方の仕事の大切さを学び、身近に接する祖父母や近所の高齢者の方にも、自分のできることを考え、相手のことを考えて行動したいという思いをもつことができた。



6年 福祉施設訪問